

発行 子ども学習支援グループ須賀の寺子屋

新学期が始まります。これを機会に新しい気持ちでいろんなことにチャレンジしていきましょう。

さて、須賀の寺子屋通信も33号となり、メンバー不足や毎号編集に手間がかかることに加え、ホームページが新たに出来上がったことで、2024年度は休刊とさせていただきます。(N.T)



支援員スキルアップ研修会③

2月25日平塚市保健センター講堂にて、ひらつか子ども・子育て支援ネットワーク(以降子育てNW)と共催で「子育て交流会」を開催しました。来場者80名。



市内の不登校児童・生徒数が512人(令和3年度)と過去最多数になり、本寺子屋にも該当する生徒が複数名在籍しています。

不登校の理由や原因・きっかけは人それぞれですが、その中の一つに体調不良で精神的に辛い思いをしている子どもたちの存在は軽視できる状況ではないと考え、子育てNW交流会プロジェクトと共に本事業を計画しました。

講師は、きりんカームクリニック院長 尾崎裕彦先生。小児心療内科医として多くの子どもや保護者の診療にあたる専門医師です。尾崎先生には、講話と来場の保護者や支援者の悩みにどんどん答えていただきました。



受講者の感想

◆メンタルに問題を抱えているのは子どもだけではなく、保護者の影響もあることが学べて大変有益でした。今後は、生徒と保護者両方の支援を意識して対応をしたいと思います。

◆受講者の質問に対し、その場で講師がエビデンスのある回答をしていただけたのが大変良かったです。受講後すぐにでも実践できそうな簡単なことを優しく教えていただき有難かったです。

◆自分はまだ子育てをしたことがないので問題点や困りごとのイメージがうまくできていなかったのですが、今回のお話を聞いたことで実際に子育てをしている人が悩んでいること、そしてその対策・解決策や考え方を知ることができ、とても勉強になりました。「子育て」というテーマではありましたが、子どもに限らず大人・友人との関わり



りにも活用できることを学ぶことができました。自分の生活や将来に活かしたいです。



卒業生の進路

毎年中学3年生・高校3年生は将来の進路を決める大切な岐路に立ちます。今年度も中学3年生9名と高校3年生1名が受験に立ち向かいました。

結果、高校3年生は志望していた大学に合格し、4月から宇都宮での一人暮らしと学生生活を始めます。中学3年生は、全員第一志望の高校に合格を果たすことができました。

志望校の決定に迷っていた生徒。受験間際になって自信が持てずにいた生徒。推薦が取れずに落ち込んだことをバネに替えて受験勉強に精を出した生徒等々、いずれも平坦な道ではありませんでしたが、寺子屋で身につけた学習習慣の成果が発揮できたものと思ひ、喜びもひとしおです。みんなよく励みました。

夢や希望を持って進学する生徒たちの前途が輝かしいものとなるよう、これからも皆様と共に見守って行きたいと思ひます。(大野)



Congratulations on your graduation!

卒業生にインタビュー

今号は、高校1年生に回答をいただきました。

Q. 寺子屋に通うきっかけは何でしたか？

自主学習が苦手だったので、学習ができる環境を求めていました。

Q. 寺子屋で楽しかったこと、思い出に残っていることは何ですか？

学習を通して、自分らしさを最大限に出せたことです。

Q. あなたにとって支援員さんの存在は？

分かりやすく自分の位置や学習状況を支援してくれた人です。

Q. 寺子屋での学習を通して、自分の中で成長できたと思うところや強みになったことはありますか？

学習の大切さや人との関係の大切さを学びました。

Q. 今の生活について教えてください。

とても充実した高校生活を送っています。

Q. 「須賀の寺子屋」はあなたにとって何でしたか？

自分らしさを出せた場所でした。(以上)

自己の特徴を理解し、困りごとに立ち向かう強さは頑固なほどでした。寺子屋に休まず通いながら徐々に人とのかわり方を学び成長した姿は、最も信頼できる生徒の一人となりました。(大野)

学習支援のヒント

小学生担当 鈴木裕理子さんからのヒント

小学校1,2年生の担当をしています。

毎回学校の宿題を持ってきて、取り組みます。早く終わると、それぞれ漢字の書き取りや算数のドリル問題をしています。まだ体力的にも日によっては、疲れたとすぐに集中力がなくなることがありますが、寺子屋に来たことを褒めています。

1年生は、ひらがな1文字の書き方から始めて、足し算、引き算まで1年間の成長をみているとすごいなあと感じます。数字だけでは理解できない長さの問題を、紙テープを切りながら答えを出すこともあります。出来た時は一緒に喜んでいきます。学校や家族の話もしながら、学習だけではなく楽しくうれしい時間を過ごせることは感謝です。

中学生担当 門馬敦仁さんからのヒント

中学生の数学と英語を担当しています。生徒が帰る時、来て良かった、また来たいと思ってくれることを大切に支援しています。ほめることは上手ではありませんが、ほめるようにしています。

生徒への説明では、まずは生徒が教科書・副教材をより良く理解できるよう努めています。今後は、eboard等の教材も調べ、生徒の個性や状況に応じて適切に説明できる引き出しを増やしていきたいと思っています。また、学習支援の後、個人的に支援員としての振り返りをして、次回以降に活かすべき点、気を付けるべき点を書き残すようにしています。今年度は受験生を担当しましたが、志望校や模試の結果等を把握して支援員からアドバイスすることも必要と感じました。

お世話になりました

活動ができなくなりました支援員の皆様、今まで子どもたちの為にご尽力いただき誠にありがとうございました。

仲野 豊さん 2016.~2024.3

足立雅子さん 2020.10~2023.12

大須賀左千子さん 2022.8~2023.12

渡邊朋子さん 2023.4~2023.8

小澤幸枝さん 2020.10~2023.11

薄木みさ子さん 2021.12~2024.7、

金子正行さん 2023.3~2023.10、

*他に短いご縁の方もいらっしゃいました。



編集後記

☆ 令和2年12月18号から今回の33号まで4年余り編集のお手伝いをしてきました。この間皆様には原稿の執筆依頼等大変お世話になりました。大野代表にはいろいろとご指導を頂き、学習支援員では得られない須賀の寺子屋の多面的な活動を知る貴重な体験をさせて頂きました。有難うございました。(中村)

☆ 寺子屋通信をお手伝いさせて頂きまして、ありがとうございました。掲載する内容やリード文を考え、誤字、脱字がないか確認する作業は楽しかったし、勉強にもなりました。時々、支援員さんの名前の誤字に気づかず、ご迷惑をおかけしました。(伊藤)

☆ 須賀の寺子屋通信は、須賀の寺子屋が活動を開始した翌年の平成29(2017)年5月1日No.1に始まりました。定期総会の報告や中学生寺子屋の様子が記事になり、生徒11名からスタートした中学生寺子屋も翌年度には23名になったと書いてありました。懐かしい記事です。以来、7年間で33号を発行できましたのも、編集プロジェクトの中村さんと伊藤さんのご尽力と、会員皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。今後はホームページで情報を配信しながら、時間がある時にNo.34を発行できたらと思っています。(大野)



平成27年5月1日No.1



令和2年12月10日No.18



令和5年1月5日No.28

長らくご愛読いただきありがとうございました。

今後の活動情報は、ホームページ「支援員のページ」でお知らせいたします。

須賀の寺子屋の活動の情報はホームページや Facebook でも紹介しています。 <https://sukanoterakoya.com>

本誌の掲載内容や写真データを無断で転写したり、SNS 等への投稿を禁止します。